

成果の説明書

(氏名) 井上 真由美	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究活動】 (1) アカデミック・スタートアップに関する調査および研究 (地域科学研究所・地方都市における中小製造企業の存立基盤に関する研究プロジェクト) 90年代以降、わが国では大学や研究機関のベンチャー創造を促進するような法改正や制度改定が進められてきた。しかし創業後に経営資源の枯渇や業績の不振によって「死の谷」に直面するベンチャーは少なくない。他方で、調査を行った高崎市に本社のある株式会社環境浄化研究所（現在の量子科学技術研究開発機構の第1号ベンチャー）は創業から5年の間は利益を上げることが難しかったものの、その後は経営が安定し、中国に事務所を置くまでに事業を拡大させることができた。多くの大学発・研究機関発ベンチャーが創業後にさまざまな経営上の課題に直面する中、環境浄化研究所が成長できた要因とは何だろうか。本研究ではアカデミック・スタートアップとして同社が保有する技術特性に着目し、公開資料や同社ならびに中国の提携先企業へのインタビュー調査からその要因を考察した。 本研究の内容は、11月21日に開催された地域科学研究所のプロジェクト公開研究会（zoom開催）において報告し、「アカデミック・スタートアップの成長と展開—株式会社環境浄化研究所の事例から—」というタイトルの論文を執筆した。論文が収められた書籍は2021年に刊行の予定である。 (2) 書籍『経営学の開拓者たち』のコラム執筆 神戸高等商業学校の初代校長である水島鍬也の教育内容とその背景ならびに水島の商業思想に関するコラムを執筆した。 「実学教育の源流—水島鍬也の教育思想—」上林憲雄・清水泰洋・平野恭平編著『経営学の開拓者たち』中央経済社、2021年。	
2 その他の事項	
【教育活動】 今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、遠隔授業への対応が必要となったが、本学教職員の方々のおかげで何とか対応することができた。遠隔授業の内容もなるべく対面授業と変わらないように心掛けた。 ゼミナールも前期は遠隔対応が必要となったが、すべての学年において当初の予定通りに進めることができた。心配していた卒業論文集も無事に刊行することができた。 その他、大学の広報活動に協力した（夢ナビ講義の取材を受けた）。	
3 次年度以降の計画・抱負	
【研究活動】 2021年度は、引続き「高等商業学校の徳育」に関する調査・研究を進める予定である。特に、神戸高等商業学校初代校長の水島鍬也の教育思想に関する調査を深めたい。	

【教育活動】

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、臨機応変に対応できるように授業準備を進めてゆきたいと思う。

また、授業内容の見直しも適宜進めてゆきたい。